

Office for Gender Equality, Yamagata University

## NEWS Letter



## 3月8日男女共同参画推進総括シンポジウム開催 「山形ワークライフバランス・イノベーション」の発展に向けて

平成21年度文部科学省科学技術振興調整費 女性研究者支援モデル育成事業の終了を迎え、平成24年3月8日(木)総括シンポジウムを開催しました。国際女性デーのこの日、県内外から94人の参加がありました。本事業を直接担当されている独立行政法人科学技術振興機構 科学技術システム改革事業プログラム主管の山村康子氏より基調講演と山形大学の全学部・基盤教育院からの取組報告に対するコメントをいただき、今後の課題を明確にすることができました。

また、パネルディスカッションでは「なぜ大学は女性教職員・女性研究者を支援するのか」をテーマに、4人のパネリストからそれぞれの立場や経験から率直に語っていただき、フロアとの質疑応答も活発に行われました。



### ◎基調講演「女性研究者支援とワーク・ライフ・バランス」

山村康子氏(独立行政法人科学技術振興機構 科学技術システム改革事業プログラム主管)

1. 日本の女性研究者の現状、2. 政策としての女性研究者支援、3. 女性研究者研究活動支援事業(旧女性研究者支援モデル育成)、4. 女性研究者支援とワーク・ライフ・バランス、について講演が行われました。

「科学技術系専門職を対象に女性研究者が少ない理由を問うた大規模調査の結果、『家庭と仕事の両立が困難』『育児前後の復帰が困難』が最も大きな理由であった。女性研究者支援にはワーク・ライフ・バランスの推進が不可欠であることから、政策として女性研究者の両立支援が行われた。ワーク・ライフ・バランスをめぐる日本の状況は先進国と比較して低水準であることから、全教職員の支援も求められる」というお話がありました。

### ◎山形大学の報告「山形大学における男女共同参画の成果と課題」

北野通世室長による全学の立場からの報告と各学部等からの報告が行われました。全学部等が揃って報告がされる機会は初めてのことであり、貴重な情報交換となりました。

特に、理・工・農学部の女性教員増への期待を受けて、それぞれの学部の実情の中での努力が報告されました。

理学部では公募に対する女性の応募比率は平均6.2%、工学部では女性の応募がゼロということもあるため、理系3学部では女性の進出を願って女子高校生・大学生対象のセミナーに力を入れて取り組んでいることが紹介されました。報告の後、山村氏から、学会等で積極的に優れた女性研究者へ公募情報の提供等を行うなど努力いただきたい、という指摘がありました。また、子育て期の教員にとって負担となっている会議の時間についても質問があり、学部によって状況が異なるものの解決すべき課題を再確認し共有する機会となりました。



(写真左から)

全 学 …北野通世 男女共同参画推進室長  
人文学部…北川忠明 副学部長  
地域教育文化学部…伊藤清郎 副学部長  
理 学 部…河村新蔵 副学部長  
医 学 部…鈴木匡子 教授  
工 学 部…神戸士郎 副学部長  
農 学 部…阿部利徳 副学部長  
基盤教育院…グリンダ ラインホルト 准教授

### ◎パネルディスカッション「なぜ大学は女性教職員・女性研究者を支援するのか」

東北公益文科大学副学長の工藤教和氏からは、平成20年度採択の慶応大学女性研究者支援事業のご経験から、男女平等の建学の精神と「学問の自由」を出発点とする女性支援の意味について語られました。同じく20年度採択の三重大学前女性研究者支援室長の小川眞里子氏からは、地域性を踏まえた県内高等教育機関等との連携による女性支援の意味が語られました。平成21年度の採択大学である佐賀大学女性研究者支援室副室長の北川慶子氏からは、大学院生から若手研究者・中堅研究者それぞれの支援を行い、特に病児保育の開始、介護講座等の実施の意味が語られました。山形大学の男女共同参画推進のプラン作成に携わった河野銀子准教授からは、女性教員の採用が珍しかった16年前の着任時と比較して山形大学は確実に変わってきたが、現在、研究で通っている東京大学でも子どもをもつ研究者が働きやすい環境を整えるなど、他大学も大きく変化しており、山形大学はまだ努力が必要だ、という指摘がありました。



(写真左から)

工藤 教和氏(東北公益文科大学副学長)  
小川眞里子氏(三重大学前女性研究者支援室長)  
北川 慶子氏(佐賀大学女性研究者支援室副室長)

# 全学・各学部等の報告「これまでの取組と次年度以降の計画」 3月8日

## 全学としての取組…北野通世 男女共同参画推進室長

### 主な取組

- 推進体制の確立とコーディネーターの配置
- 「山形大学男女共同参画基本計画」の策定(平成22年6月)
- 「基本計画」に基づく10ヶ年の行動計画の基本施策や制度の確立
- 県内高等教育機関や大学コンソーシアムやまがたとの連携開始

### 今後の計画

- 推進体制の維持。推進室の継続(人員の一部縮小)
- 「基本計画」(平成22～31年度)に基づく行動計画の実施
- 両立支援(研究継続支援員・託児サポーター等)制度の継続
- 小白川キャンパス保育所の検討継続

## 人文学部…北川忠明 副学部長

### 主な取組

- 現在、女性教員比率12.5%。不利な地理的条件が大きな要因
- 推進体制として4名の委員による男女共同参画推進検討部会設置
- 採用人事の応募者男女数データを保存
- 男女共同参画について学生・教職員向けリーフレット作成中

### 今後の計画

- 推進体制の維持・拡充を検討中
- 環境整備(会議の終了時刻の遵守、時間外労働の抑制、テレワークの促進、育児介護中の職員の短時間勤務制度の促進等)
- 男女共同参画リーフレットの活用

## 地域教育文化学部…伊藤清郎 副学部長

### 主な取組

- 地域教育文化学部男女共同参画推進委員会を設置
- 学部内各種委員会に女性を登用し、人材育成を推進
- 学長・学部長と女性研究者との懇談会を実施
- オープンキャンパスでの男女共同参画推進啓発パネル展実施

### 今後の計画

- 学部としてのワークライフバランスの具体的検討の実施
- ワークライフバランスの実現と教職員数減少の問題の直視
- サバティカル制度の運用と女性の利用促進により魅力アピール
- 出前授業や女子高校生向けセミナーで学部の魅力を伝える

## 理学部…河村新蔵 副学部長

### 主な取組

- 現在、女性教員3人(4.2%)、公募への女性の応募比率は6.2%
- 公募要領に「男女雇用機会均等法実施の取組」を明記
- 「理系女子」(テレビやコミック等)への注目に関連して、女子高校生・大学生・一般を対象にセミナーの実施

### 今後の計画

- 学部としてあるいは学会としての取組(女性研究者が働きやすい環境づくり、女性研究者の可能性の拡大、女性が研究することへの偏見や誤解の除去)の促進
- 女性研究者の裾野拡大の取組継続

## 医学部…鈴木匡子 教授

### 主な取組

- 女性医師・看護師サポートの取組(24時間保育、短時間勤務、研究継続支援員制度、メンター制度)
- 再就職のためのリフレッシュ教育、高度医療への専門教育実施
- 女子高校生・医学生へのセミナーや懇談会による裾野拡大

### 今後の計画

- これまでの取組の継続
- 新たな取組(常勤短時間雇用の実現、女性医師の生涯教育支援、看護師のキャリアアップ[専門・認定看護師等])
- 24時間保育園の定員増の検討

## 工学部…神戸士郎 副学部長

### 主な取組

- 現在、女性教員5人(2.8%)、2012年1月女性教授を1人採用  
8学科の内バイオ化学工学科を希望する女性が増えている
- 学長・学部長と女性研究者等との懇談会を開催
- 女性研究者裾野拡大セミナーを開催

### 今後の計画

- これまでの取組の継続
- 女性研究者が働きやすい環境の整備
- 女性研究者の声を聴くための懇談会の開催継続
- 女子高校生・大学生対象の女性研究者裾野拡大セミナーを継続

## 農学部…阿部利徳 副学部長

### 主な取組

- 男女共同参画推進委員会委員を中心とする推進体制の確立
- 農学部女性研究者と学長・学部長との懇談会の開催
- 学生対象講演会「女性研究者として歩んできた道」実施
- 女子高校生向け実験セミナーの開催

### 今後の計画

- 委員を中心とする推進体制の継続
- 女性研究者が働きやすい環境の整備
- 女性研究者の声を聴くための懇談会の開催継続
- 女子高校生・大学生対象の女性研究者裾野拡大セミナーを継続

## 基盤教育院…グリンダ ラインホルト ヨーゼフ准教授

### 主な取組

- 現在、女性教員割合42.9%
- 推進体制として、専任教員懇談会で意識の共有を図り、基盤教育院会議で、部局としての企画・立案を行い推進している
- 学長・学部長と女性研究者との懇談会を2回実施

### 今後の計画

- 男女共同参画推進体制の維持
- 全学委員会や基盤教育院のディレクター・サブディレクター等への女性教員の登用を図る
- 女性研究者の声を聴くための懇談会の開催継続

# 学長・学部長と女性研究者との懇談会

## ◎理学部

平成23年11月24日(木)  
16:00~17:00 (20人参加)

女性教員全員と5人の大学院生・学部生が参加し、天羽優子准教授の進行で懇談会が行われました。学生から、「結婚して子育てもしながら研究されている女性の先生が身近にいるのが心強い。」という発言がありました。学長をはじめ室長・学部長から、「学生の皆さんは結婚や子育てで仕事を辞めなくて、働き続けていただきたい。」と強い期待が述べられました。



## ◎医学部

平成24年1月12日(木)  
15:30~16:30 (25人参加)



子育て期の研究者から、「臨床医として働きつつ研究を続けるのは難しい。研究継続支援員制度は大変ありがたい。」という話が出されました。また、24時間体制の保育所への入所希望が増え、定員をオーバーしているということです。「子どもが小さい頃は保育園があるからよかったが、小学校低学年の頃が手がかかり大変だった。これから介護が必要になってくる。その時々によってニーズが変わってくる。」という話もありました。医学部では介護期の支援を必要としている方も多いことが分かりました。

## ◎人文学部

平成24年2月13日(月)  
12:00~13:30 (18人参加)

ランチを囲んで和やかな雰囲気の中、赤倉泉准教授の進行で懇談会が行われました。育児休業を終えて復帰した女性研究者からは「センター試験の日など大事な時に子供が熱を出さないか不安がある。病児保育が欲しい。」という意見がありました。また、性別に関係なくワークライフバランスを実現することが大きな課題であること、とくに女性のワークライフバランスのためには男性の理解・関心が大事であることも話題になりました。さまざまな意見交換を通じて、育児だけでなく、介護なども念頭に置きながら検討していくことが大切であることがわかりました。



## ◎工学部

平成24年2月27日(月)  
15:00~16:00 (21人参加)



プロジェクトの研究支援者3人、4月から社会人になるという4年生2人、工学部の女性職員4人を含む21人が参加して懇談会が行われました。学長から、「国からの補助金が終了しても、粘り強くあきらめずに女性も男性も働きやすい職場づくりを進めていきたい。」という挨拶があり、全員の自己紹介が行われました。「男女共同参画では、女性が一方的に子育てを負担するのではなく、男性も積極的に関与していく必要がある。」「文科省も同じ建物の中に託児所があり、子どもをあずけて仕事ができる。」という紹介があり、工学部の教職員のための保育所についても検討していきたいという話が出されました。

## 目指せ! 未来のMs.CEO!! ~理系女子力を世界で活かそう!!

裾野拡大セミナーの開催…工学部

平成24年1月28日(土)  
13:30~17:00 (32人参加)

- 講演
  - ・「平和構築で生きる理系力」瀬谷ルミ子氏(日本紛争予防センター代表)
  - ・「理系人間ならではのソフト・パワーで東北を復興せよ」山口ステーブ氏(山口コーポレーション代表・トラベル東北代表・日本ソフトパワー研究所代表)

- パネルトーク
  - 「世界に貢献する理系女性研究者リーダー像を考える」

上記2人の講師と大野恵美氏(㈱IHI電力事業部燃焼技術部主査)を交えて有意義なトークが行われました。参加した学生からは、「自分にも出来るかもしれないという希望が見える気がした。」「『やらない言い訳をしないこと』という言葉が心に響いた。」という感想が寄せられました。



## 山根 純佳 先生

山形大学人文学部人間文化学科講師


**パートナーの内藤 準先生  
(首都大学東京 社会学教室)  
6ヶ月の育児休業取得**

山根純佳先生のパートナー内藤準先生の6ヶ月間の育児が終わり4月から大学へ復帰されます。山形で親子3人で過ごされた時間は深い絆と思いを生みだし、ウィークデイの離れた生活や困難もきっと克服されていくものと願っています。

## ◎どのような研究をされているのですか。

専門は社会学です。妊娠、出産、子育て、介護などいわゆるケアにかかわる人たちが、なぜ社会的に弱い立場に置かれるのか、その背景にどのような社会構造や価値規範があるのか研究しています。近代社会は、ケアを個人、家族の問題(家族化)、なかでも女性の責任にしてきましたが、もうその限界はあきらかになっています。ケアサービスの整備やワークライフバランスなどの制度の改善によって、ケアを社会で共有(社会化)していくことが必要となっています。しかし、日本は特に子育ての分野は前進していません。

私自身も昨年3月に出産してから、子育ての大変さと子育て支援の必要性を実感しています。生後6ヶ月で仕事復帰をし、子どもは保育園に通っています。とても健康に産まれてきた子ですが、保育園では風邪、ウイルス性の下痢、インフルエンザなどさまざまな病気がかかってきます。子どもの世話も大変ですが、かなりの割合で、親にも同じ病気がうつります。もちろん、保育園に行けないと仕事を休まざるをえません。山形市には病児、病後児保育がありますが、受け入れ人数はまだまだ少ないです。働く親にとって、病児保育の充実はとても重要だと痛感しています。

私の仕事復帰と同時に夫が育児休業をとり、子どもの世話を手伝ってくれています。私の育休中よりも、積

極的に子育てにかかわることができ子育ての楽しさも実感していると思います。女性と男性が半年ずつ育休をとるというやり方は、男女が平等に育児分担をするという習慣をつけるのに、とてもよいきっかけになると思います。ぜひ男性の育休取得への理解を広がっていただきたいです。

ただし我が家の場合、夫は東京の大学で働いているので、4月からウィークデイは私ひとりで子育てをすることになります。職住近接で子どもとの時間をゆっくりとれる点はよいですが、やはり一番心配なのは、子どもの病気です。職場のワークライフバランスの保障や、病児保育などのサービスの整備など、一人親でもゆとりをもって子育てと仕事を両立できる社会をつくっていく必要があると思います。もちろん今の日本の状況はこれとはほど遠いですが、山形大学のワークライフバランスの推進にはとても大きな期待をしています。

最後に、ワークライフバランスというと子育てばかりが強調されますが、介護も大きな問題で、毎年10万人が介護によって離職していると言われています。育児と仕事の両立だけでなく、育児と介護の両立も見据えたワークライフバランスの整備によって、女性、男性、あらゆる世代の人が、効率よく気持ちよく働ける環境ができることを期待しています。

## Information

**育児休業期間(一箇月以下)は、  
期末手当の在職期間から  
除算されません。**

教職員の育児休業取得を促すため、山形大学期末手当及び勤労手当支給細則の一部を改正し、育児休業の承認に係る期間が1箇月以下である職員について、期末手当に係る在職期間から当該育児休業の期間を除算しないことになりました。平成24年4月1日施行。

## Information

**「山形大学における教員の任期に関する規程」  
(平成16年4月1日)の改正**

任期を定めて雇用されている教員が、出産休暇や育児休業を取得しやすくするため、上記の規程を改正して、出産休暇又は育児休業の期間を限度にその期間を「特例としての任期」とし、任期満了後に、「特例としての任期」を付することができることとしています。平成23年4月1日から施行しています。

## Information

**小白川キャンパス及び米沢キャンパスの  
保育所設置に関する緊急アンケートのご協力  
ありがとうございました。**

小白川キャンパス保育所(仮称)設置に関するアンケートには190人から回答をいただきました。現在、未就学児をお持ちの方は59人で、キャンパス内に保育所があれば入りたいという方が9人、条件を整えば入りたいという方が17人、将来、子どもをもったら入りたいという方が43人でした。保育所設置に関して、24年度中に一定の結論を出すべく検討をしていきます。

編集後記/平成21年度採択の当事業は3月で終了を迎えました。各方面からのご支援・ご協力をありがとうございました。3月8日の総括シンポジウムで報告いたしましたが、国の補助が無くなり一部縮小はあるものの、「山形大学男女共同参画基本計画」に基づいて来年度以降も継続して事業を推進して参ります。各学部等からも来年度以降の計画が報告されました。今後とも連携・協力をよろしくお願い申し上げます。(2012年3月)



## 山形大学男女共同参画推進室

〒990-8560 山形市小白川町一丁目4-12 TEL 023-628-4937、4938、4939  
E-mail danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp  
http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/